

令和3年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を踏まえた改善の取組

① [国語]

一昨年度と同様に小・中学校ともに「書くこと」について課題がある。引き続き、全ての教科において言語活動のさらなる充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成していく必要がある。特に国語の学習においては、学習のねらいを明確にすることで興味・関心を高めること、既習事項を想起させることで見通しをもたせること、学習内容を振り返ることで次の学習につなげられるようにすること等の支援を積み重ね、授業改善に取り組んでいく。

② [算数・数学]

算数・数学については、小学校6年の全国学力・学習状況調査を除き、全国平均、県平均の正答率を上回っている。このような結果が出ているのは、各学校での「放課後算数教室」をはじめとした補習や、「和光市小学校少人数学級推進教員」、「和光市小・中学校学力向上支援教員」等の配置による学力向上への取組の成果によるものと考えられる。今後も、学習内容に応じてプログラミング教育を含めたICTの活用、ティームティーチングや少人数指導を効果的に行い、さらに質の高い指導実践等を通して学力の定着を図っていく。また、算数・数学主任会等の研修の機会を活用しながら、学習内容について小・中の円滑な接続に取り組んでいく。

③ [英語]

英語については、全ての項目で県平均を大きく上回っている。これは、外国語指導助手とのティームティーチングによる言語活動の充実を図った授業を展開している成果が表れたものと考えられる。昨年度・今年度はコロナ禍により話す活動に制限があったため、次年度以降は話す活動を通して表現力を高めていけるよう取り組んでいく。

④ [その他]

- ・ 児童生徒の学習意欲や自己肯定感を高めていくために、ICTの積極的な活用や、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を図ることができるよう、市内各校の効果的な取組等を共有し、実践に向けた働きかけを行う。
- ・ 各学校に対して学力調査の成果と課題について分析を促し、重点的な取組や課題解決のための方策を学力向上プランに明確に位置付け、組織的な支援を行う。また、各学校の取組について情報共有し、効果的な取組については積極的に市内に広めていく。
- ・ 各学校の学力調査で明らかになった課題について、教育委員会・県学力向上推進担当が実施する計画的な学校訪問の機会を生かし、授業改善に向けた指導を行うことで、学習指導や生徒指導の充実を図る。
- ・ 教育委員会が委嘱している小・中学校の研究に対してさらなる支援や指導を行い、学校の実態に応じた学力向上の研究の充実を図る。
- ・ 小中学校においては、長時間ゲームで遊んだり、携帯電話やスマートフォンで電話やメール、インターネットをしたりする児童生徒の割合は県平均よりは低くなっているが、学年が上がるごとに時間が増加する傾向にある。今後も家庭との連携を図り、家庭学習の充実や基本的生活習慣の定着を図っていく。